

爪切り屋メディカルフットケアJF協会 協会通信

NO.19

心つなぐ足へのメッセージ

2014年 8月 発行

編集・発行 爪切り屋メディカルフットケアJF協会 広報委員会
〒179-0085 東京都練馬区早宮3-12-5 TEL 03-3992-1824 FAX 03-3992-3309

会長のページ

爪切り屋メディカルフットケアJF協会

会長 宮川 晴妃



入梅もあけ、猛暑が続きますが皆様お元気で
いらっしゃいますか。

「爪切り屋」メディカルフットケアJF協会第27回
研修会「フットケアの原点に戻って～足の洗い方・
ゾンデの使い方・爪の切り方の最新技術を学ぼう
～」で実技講習を行いました。足や足趾、爪のケア
は、なぜ必要なのか、なぜ専門技術が必要なのか考
えてみましょう。足趾や爪にトラブルを抱え困っ
ている人々が大勢いますが正しいケアの出来るのは
ケアワーカーである私達です。

厚い爪・硬い爪・巻き爪・外反母趾・爪の伸びすぎや深爪による炎症・爪白癬や爪カン
ジタなどの皮膚疾患に侵された足、それに感染した爪などです。また、足裏の角質化によ
る亀裂など様々です。トラブルがあると、歩くこと、靴を履くことが苦痛で、外出の機会
が減り、他の人との交流も少なくなり、閉じこもり要因ともなりかねません。正しいアセ
スメントと正しいメディカルフットケアでQOLの向上を目指して行きたいものです。

第43回 理事会報告

平成26年5月18日(日)

会場 早宮教室

総会後初の理事会が、下記のとおり開催されました。新任理事6名を含むスタートとなり
ます。会員の皆様の活発なご意見をいただきながら運営していきたいと考えています。
よろしくをお願いします。

(1) 活動テーマについて

宮川先生のフットケア技術は日々進化しており、会員も相互に新しい技術や考え方を
常に習得していく必要があります。歩き方、靴の選び方、足の洗い方などは基本であり、
フットケアはトータルケアであることを再認識し、平成26・27年度の活動テーマを
「フットケアの原点に戻って」としました。

(2) 委員会の編成について

教育企画委員	金指 木村 西脇 宮坂	(リーダー 西脇 会計 金指)
広報委員	三枝 荒井 石川 馬籠	(リーダー 三枝 会計 石川)
総務委員	総務については、事務局で処理する。総務委員会は設置しない。	
公衆衛生学会委員	山田 荒井 馬籠	(リーダー 山田 会計 荒井)

平成26年4月12日に中野サンプラザ7F研修室11において爪切り屋メディカルフットケアJF協会平成26年度総会が、司会木村鉄也理事、議長西脇友子会員 議事録署名員橋本勝子会員で行われました。出席者23名 委任状44名 会員総数120名 議案は、下記のとおり承認されました。

- 1 理事改選
- 2 平成25年度活動報告(原案に公衆衛生学会出展を追記)
- 3 平成25年度収支報告書
- 4 平成26年度収支予算書
- 5 26年度活動計画(11月5日6日7日に公衆衛生学会出展を追記)

特別講演では、済生会川口総合病院皮膚科主任部長加藤卓郎先生にご講演いただいた後、会員が事例として提供した写真をみながら、皮膚・爪に何が起きているのかを解説していただきました。ご講演の要旨について加藤先生に原稿をお願いいたしました。

また、会員の木村鉄也氏より第72回日本公衆衛生学会総会の報告がありました。

【足と爪の病気の診断と治療】 済生会川口総合病院 皮膚科主任部長 加藤卓郎 先生



2014年4月12日に行われたメディカルフットケアJF協会の研修会で「足と爪の病気の診断と治療」と題する講演を担当しました。その要旨を記載します。講演は約90分間で、足と爪の病気、糖尿病の問題点、フットケアの実情と問題点、目的を明確にしたケアの順にお話ししました。なお病気は重要なもののみとしました。

足と爪の病気 足の皮膚病は感染症、非感染性の皮膚炎(接触皮膚炎・掌蹠膿疱症)、角化症(胼胝・鶏眼)、腫瘍(皮膚がん・悪性黒色腫)、その他(皮膚潰瘍・壊疽)に分けると理解しやすいです。感染症は最も重要で、細菌(毛包炎・膿疱疹・蜂窩織炎)、ウイルス(疣贅)、真菌(白癬)、医動物(疥癬)が原因です。頻度の多い足爪の病気は厚硬爪、陥入爪、巻き爪、ひょう疽、爪白癬です。病態を正確に把握し、ケアで対応可能か、治療を促すか判断しましょう。糖尿病の問題点 糖尿病患者は自覚症状の異常、皮膚の乾燥・角化・亀裂、胼胝・鶏眼、潰瘍・壊疽、感染症、爪の異常、足趾の変形を呈しやすいので注意が必要です。以上は、神経障害、血流障害、易感染性、視力障害などで生じます。

ケア前に対象者の状態を把握し、リスクが高い場合は十分な説明と同意を行い、トラブル発生時に対処してくれる医療機関との連携も必要です。フットケアの実情と問題点

フットケアに関する問題点として、ケアと治療が混同されている、施設・診療科・職種によって対象者や目的・内容が異なる、保険での診療報酬が少ないことをあげ、

演者なりのケアと治療の相違・分類を提案しました。目的を明確にしたケア 足と爪の病気は、感染や美容的な問題とともに、自覚症状の悪化、日常生活の不都合、下肢機能障害をきたします。対象者に何が必要か、ケアの目的を常に考えましょう。最後にJF協会のフットケアは、安全に痛くなく、爪を切る有用な専門的な技術で、フットケアや治療の場で高く評価されるのみならず、習得者は患者やスタッフの指導役も期待されると考えます。会員の皆様のますますのご活躍を祈念します。

第27回研修会・・・フットケアの原点に戻って

～洗い方・爪の切り方の最新技術を学ぼう～

第27回研修会が7月5日(土)東京法規出版会議室で行われました。
宮川先生の講義の後、会員の須藤さんをモデルに宮川先生によるデモンストレーション、
そして参加者全員二人一組になり実習を行いました。
新しい技術をしっかり覚えようと、あちこちから先生を呼ぶ声が飛び交い、質疑応答も
活発な研修会でした。宮川先生に要旨をまとめていただきました。

(1) 清潔を保つ足の洗い方

柔らかい歯ブラシ(豚毛)に石鹼をよく泡立て爪の周囲、指の間、土踏まず、踵を
洗い老廃物を取り除く。(消毒時と同じ手順で行うと良い)

爪周囲はブラシを一方向に爪母部分を洗う。(後爪郭、甘皮にはブラシを当てない)
側爪郭は根元から爪先に向かって洗う。爪先はブラシを上向きにして小刻みに。

(2) ゾンデの新しい使い方

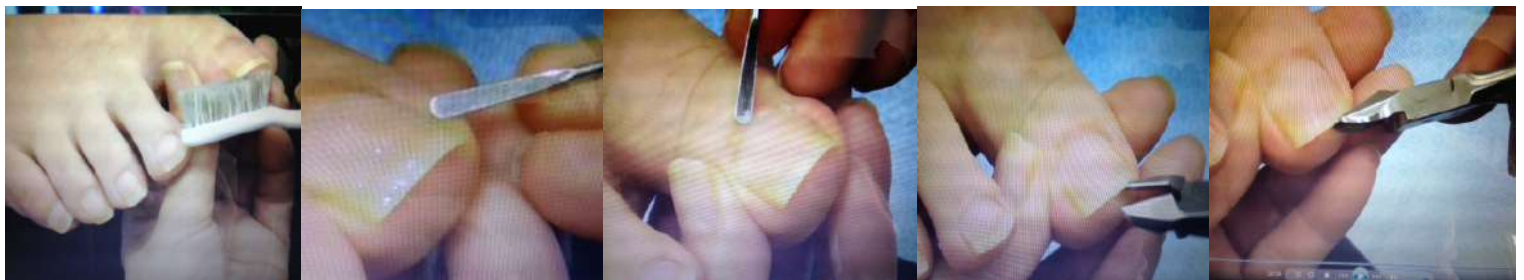
いままでは爪先端よりゾンデを真直ぐに進め練り、横に上がって回し前に進む8の字を
書くようにと伝えてきましたが、今回は爪先端よりゾンデをハの字に置き丸い角を使い
前に進めゾンデを回し練る、横に上がって回し始めのハの字に戻る。

これを繰り返すことでスムーズにゾンデが動くようになり、
角質除去も簡単に時間も短縮できる。

(3) 協会のマークの入ったオリジナルニッパー、他ニッパーの使い方

後刃を使い爪の角を2～3mm切る。その折に刃は爪の形に沿って上を向く。

次の刃を入れる時は、切り口の部位に刃を開いたまま斜めに入れ刃を垂直に戻して切り、
そのまま爪の形に沿って刃先は下向きとなる。中高の爪に沿ってニッパーを使い切っていく。



(1) ブラシ当て方

(2) ゾンデはハの字に置く

(3) 刃を開き斜めに入れ垂直に戻し切る

学んできた基本技術は大切なことです。

傷つけない、痛みを与えない、心をつなぐフットケアです。

より良いケアができる事を願っています。お教室で待っています。

* 研修会のビデオはCD保存してありますが、貸し出しはご容赦ください。

協会の財産保護、先生方の肖像権等の問題から閲覧は協会事務所でのみとなります。

《お知らせ》 第73回日本公衆衛生学会総会に今年度も出展します。

◆会 期 11月5日(水)～7日(金)

◆会 場 栃木県総合文化センター 宇都宮市本町1-8

JR宇都宮駅西口よりバスで「県庁前」下車3分、東武宇都宮駅下車 徒歩10分

◆出展内容 1 フットケアパネル展示 2 フットケア体験コーナー

※ 会員の皆様のご協力をお願いします。

参加希望の方は、事務局までご連絡をお願いします。

会員報告

山あり谷あり心をつなぐフットケア

H22年卒業 三重県 菟野厚生病院 看護師長：山田 直美

卒業後、この資格を病院内でどう活かしていくか悩んだ4年間でした。病院で、糖尿病患者においては、国がフットケアを推奨し、170点の算定がとれるためH23年度より、すぐにとりかかることができました。しかし、高齢者の転倒予防に対する取り組みとしてのフットケアは、中々広まらず、限られた人員のなかで業務の間にフットケアを実施するには、自分の立ち位置もあり、フットケア外来実施迄、長い道のりでした。

① フットケアの重要性をスタッフに知ってもらう機会が必要である

② 病院で行うには、医師からのバックアップの必要性 の2点が課題となりました。
そのために以下の取り組みを実施

H23 院内研修 5回/年 爪の役割 切り方 足の洗い方 フットケアの重要性について 現在は、介護福祉士に1回/年継続

H24 日本公衆衛生学会総会(山口県)に参加した町の保健師より、町の「健康相談」でフットケアを引き受けて欲しいと依頼があり1～2回/年、個別相談：セルフフットケアについて

H25 各病棟スタッフ1名選出してもらい、フットケア外来設立に向け病棟の患者様のフットケアラウンドを実施 1回/週 午後

H26 4月 実践症例を皮膚科医師に提示し、皮膚科からのフットケア依頼を受けるようになる

まだまだ、少人数ではありますが「ありがとう。こんなことしてもらって」「足が地に着いた。軽くなった。」と言う声をきくと疲れも吹き飛ばす毎日です。また、当病棟は整形外科ですが転倒骨折の患者様は、熱や食欲低下などで転倒する背景がありますが、爪に何かの問題がある方が多くを占めます。歩行時においてストッパーの役目をなさなくなった写真を見れば「それはこけるでしょう。」感じられると思います。



現在、フットケアの分野を糖尿病の認定看護師や WOC の方が担う施設も多くなってきていますが、技術面で確立している宮川式フットケアが広がることを願います。そのためには、私自身も含め、会員皆様が研究や症例を発表し、継続した技術・知識の提供ができるよう、時には、教室に参加したりしながら正しい技術で宮川式フットケアを繋いでいくことが必要だと思います。

編集後記

新役員体制になって、初めての協会誌発行です。

不慣れな点もあり、発行が遅くなりましたことをお詫びいたします。

これまでの協会誌の蓄積を継承しながら、新しい視点を取り入れて発行していきたいと考えています。会員の皆様、どんどんご意見、活動情報等をお寄せください。